

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	21072
課題名	腎がん終末期患者の地元への移住を自己実現した意思決定支援
研究期間	倫理委員会承認日 ～ 2022年 2月28日
研究の対象	2021年1月最終治療導入目的にて当院に入院をされた。しかし、治療継続は厳しく、1月下旬に長期間続けてきた腎がん治療を中断、ベストサポータティブケア（がんに対する抗がん剤などの積極的な治療は行わず、症状などを和らげる治療に徹すること）に移行した腎がん患者さん。
利用する試料・情報の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 診療情報（詳細：電子カルテ内の年代、性別、診断名、治療内容、検査結果、患者さんの言動、看護支援等の看護記録と診察記事） <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名： ） <input type="checkbox"/> 血液 <input type="checkbox"/> その他
研究の意義、目的	<p>【目的】腎がん患者さんが余命宣告後2か月の短期間で、自己実現であった地元で最期を過ごす意思決定をした心理過程と看護介入を明らかにする。</p> <p>【研究の意義】医療が高度・複雑化する中、在院日数の短縮によって、がん患者さんの看取りや最期の過ごし方を外来で意思決定する場面が増えている。本研究によってがん患者さんが、自分らしく生きることを支え続けるための、外来における看護実践に有用な示唆を得ることが出来ると考えられる。</p>
研究の方法	<p>1. 研究の種類・デザイン：後ろ向き観察研究</p> <p>2. 方法：</p> <p>長期の薬物治療後、ベストサポータティブケア（がんに対する抗がん剤などの積極的な治療は行わず、症状などを和らげる治療に徹すること）にて、地元で最期を過ごすことを意思決定した経過を後ろ向きに電子カルテより抽出し、抽出した患者さんの言動、看護支援等の看護記録データを意味・類似性に従い分類し分析する。</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申し出ください。</p> <p>今回得られた内容が研究に用いられることについてご了承いただけない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお申し出ください。研究に参加されなくても不利益が生じることは一切ありません。</p> <p>照会先および連絡先：</p> <p>旭川医科大学病院 看護部 外来ナースステーション 看護師 内田瑠美（研究責任者） 〒078-8510 旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号 電話（直通）0166-69-3623</p>